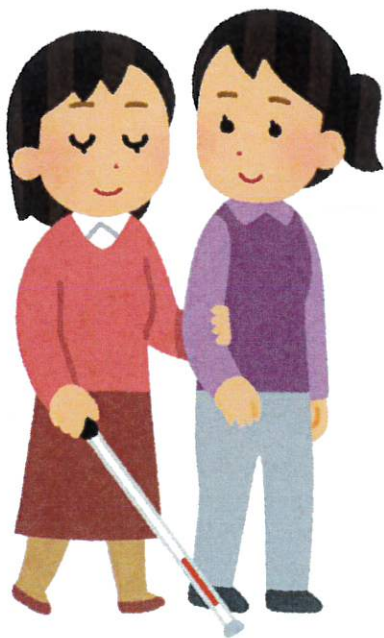


名古屋市守山区社会福祉協議会

視覚障がい者体験 視覚障がい者お話し会



お申し込み～実施の流れ

①実施希望の3ヶ月前までに守山区社会福祉協議会までお申し込みください。

※希望日を第3希望まで忘れずにご記入ください。

住所：〒463-0048 名古屋市守山区小幡南一丁目24番10号

TEL：052-758-2011 FAX：052-758-2015

②体験指導ボランティア・視覚障害当事者と一緒に打合せをします。

打ち合わせ日時の希望を申込用紙にお忘れなくご記入ください。

(社会福祉協議会が、各協力者との打合せ日を調整します)

③体験・お話し会 実施(例)

実施例1～アイマスク&ガイドヘルプ体験+当事者お話し会～

*アイマスク&ガイドヘルプ体験

(ガイドボラ・守山ききょう、外出支援ボラ・かすみ草)⇒詳細はP2～3

現在、守山区で視覚障がい者等の外出支援活動をしているボランティアの指導の下、アイマスク体験・ガイドヘルプ体験ができます。全盲の方の感覚を実体験したり、ガイドヘルプのコツを学んだりすることが出来ます。

実施場所は体育館等の広い場所が望ましいです。

*盲導犬同伴でのお話し会(区内在住視覚障がい当事者)⇒詳細はP4

盲導犬を同伴している講師のお話し会を実施できます。

日常生活でできること・できないこと等をはじめ、視覚障がい者の生活について、実演やクイズを交えながら楽しく学ぶことができます。実施場所は、体育館、またはトワイライト教室や特活室等の少々広めの場所が望ましいです。

実施例2～当事者との交流型お話し会+各種視覚障害体験～⇒詳細はP5

*視野狭窄・中心暗転・白濁体験(盲養護老人ホーム瀬古第二マザー園)

視覚障害は全盲だけではありません。

アイマスクでは体験できない、視野狭窄・中心暗転・白濁の視界を専用ゴーグルを用いて体験できます。

安全性を考慮し、教室での体験をお勧めしております。

*交流型お話し会～各教室でお話し会(盲養護老人ホーム瀬古第二マザー園)

各教室に一人ずつ視覚障がい当事者に入ってもらい、より身近な距離でお話し会を実施できます。

便利グッズや点字本等も紹介し、実際に触ってもらうことができます。

アイマスク&ガイドヘルプ体験に関する注意点

①ガイド役も大事な学習！

どうしても、初めての体験なので、アイマスクを装着した側に注意が向きがちですが、「どういう風に声かけしたら良いかな?」「どういう風にガイドをしてあげたら助かるかな?」ということにも重点を置いてふりかえりをしていただけると幸いです。

②体験時の服装等について

- * アイマスク着用時にはメガネをはずしてもらいます。
メガネ置き場や入れ物等をご用意いただくようお願いいたします。
- * アイマスクを利用する際は、直接肌に触れないようティッシュペーパーを挟んでいただきますので、ご用意をお願い致します。
- * 冬期に実施する際、マフラー等首に巻くような防寒具は、安全上の都合により外して体験をしてください。
(待機時には着用していただいて結構です)
- * 靴は体育館シューズのような、かかとがしっかりとあるものを履いてください。スリッパ等は禁止です。



盲導犬同伴での視覚障がいお話し会

守山区在住の視覚障がい当事者にご協力いただき、お話し会を開催することができます。

*家の中でできること・できないこと

ここでのメインはじゃがいもの皮むき！

器用に包丁を使い、触覚を頼りに綺麗に皮むきを実演します。

また、食品の賞味期限を読み取ることができない等をできないことの例として挙げます。

*便利グッズの紹介

できないことを補うための便利グッズ等を紹介します。

例えば、点字版と点ぴつを用いて、賞味期限等をメモし、食品に貼りつけておけば、いつでも確認することができます！

ほかにも、点字付き絵本やカレンダー、UNO等を紹介し、会場内に展示していただくことも可能。実際に手に取り、ゆっくり見ることもできます。

*盲導犬の紹介

盲導犬のトイレ写真や買い物をする際の写真等を紹介したり、クイズ形式にしたりして、盲導犬の仕事や生活について紹介します。

後方の生徒にもよく見えるように、実際に生徒の周りを一周して歩いて紹介することも可能です。

*寸劇（視覚障がい者への関わり方）

「道で出会ったとき」「電車で席を譲るとき」等の寸劇をとおして、街で視覚障がい者に出会った時の声掛けの仕方について学ぶことができます。

★上記はあくまで実施例です。

学習内容についてご希望があれば是非ご相談ください！



瀬古第二マザー園との交流型お話し会＋各種視覚障がい体験について

守山区内の福祉体験学習では、瀬古第二マザー園さんにご協力いただき、マザー園に入所している当事者の方々と交流型お話し会や特別なゴーグルを用いた各種視覚障がい体験を行っています。

1回の訪問につき、2～3名の当事者を派遣することができます。

* 視覚障がい当事者の生活について

マザー園職員と当事者が対話形式で日常生活について語っていただきます。マザー園での生活だけでなく、マザー園に入る前や今までに経験したこと等についての話も聞くことができます。

* 便利グッズの紹介

普段使用している便利グッズや点字本を紹介し、実際に手に取って触れていただいたりすることができます。

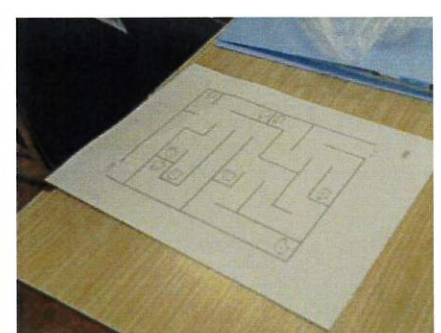
墨字本（一般的に売られている活字の本）を点字本にすると、何倍もの量になることが見て取れます！

* 各種視覚障がい体験

視野狭窄・中心暗転・白濁の状態を体験できるゴーグルを掛けた状態で、自分の名前を書いてみたり、用意された迷路プリントに挑戦してみたりすることで、普段は簡単に出来ることが難しく感じるかもしれません。

★上記はあくまで実施例です。

学習内容についてご希望があれば是非ご相談ください！



～コロナ禍において安心・安全に福祉教育を実施するために～

その1 基本的な予防措置の徹底のお願い

福祉教育では、外部の講師が訪問することになります。
換気や学習前後の手洗い・うがい・手指消毒の徹底をお願いします。
また、学習に参加する方は、当日朝の検温をお願いいたします。
少しでも体調不良を感じた方がいれば、参加をご遠慮いただいておりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。
上記の予防措置は、当日従事する講師・社協職員も徹底させていただきます。

(別紙「福祉教育実施における感染防止対策チェックシート」もご確認ください)

その2 感染や濃厚接触疑い・緊急事態宣言発令の場合

学校・講師・社協のいずれかに新型コロナウイルス感染(疑い含む)や濃厚接触者認定があった場合、授業を延期(または中止)させていただきます。

また、国や県等から緊急事態宣言や外出自粛要請が発令された場合も、延期(または中止)させていただく場合がございますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

その3 使用アイマスク・特殊ゴーグルについて

感染症予防の観点から、使用アイマスクおよび特殊ゴーグルにつきましては、一人一枚使用し、使い回しをしないようお願いしております。いずれも数に限りがございますので、お申し込み時にご相談ください。

タオルで代用する等、代替案の検討もお願いいたします。

また、貸出アイマスク使用後は除菌(洗濯)が必須となりますのでご協力お願い致します。



その4 体験ブースの縮小等について

アイマスク&ガイドヘルプ体験では、前のペアが発発してから次のペアが発発するまでの間隔を空け、各体験ブースで人が溜まらないようにする等の工夫が必要です。

また、従来「目が見えない状態で日用品等を触り、物当てをする」体験をしていましたが、多くの人が直接接触る体験は、感染症予防対策の観点から当面の間中止いたします。

その5 体験時には最低限の会話以外は控えてください

アイマスク&ガイドヘルプ体験を行う際、ガイド役から盲者役へ、随所で声掛けをしてもらいます。

なるべく対面にならないようお気をつけいただき、必要最低限の会話以外は控えるようお願いいたします。

